

## 目 次

はじめに

序 章	私法は公共料金・サブスク料金の 一方的値上げに対応できるのか	I
第 1 章	ドイツにおける衡平給付確定の法理の基礎理論と 優越した力の濫用に対する良俗規制の意義と限界	11
第 1 節	序	11
第 2 節	取引上の優越した力の濫用に係る良俗規制	15
第 3 節	衡平給付確定の法理に係る立法資料	24
第 4 節	衡平給付確定の法理に係る趣旨・要件・効果	29
第 5 節	良俗規制の限界と衡平給付確定の法理の基礎的意義	36
第 2 章	ドイツにおける衡平給付確定の法理の判例分析 ——公共料金の不当な値上げ	39
第 1 節	序	39
第 2 節	不当利得返還請求訴訟	45
第 3 節	無効確認請求訴訟等	62
第 4 節	損害賠償請求訴訟	68
第 5 節	考 察	70
第 3 章	ドイツにおける衡平給付確定の法理の判例分析 ——サブスク契約等	111
第 1 節	サブスク契約	111
第 2 節	その他の分野	116
第 3 節	考 察	122
第 4 章	EU における衡平給付確定の法理	125
第 1 節	不公正条項 EC 指令	125

第2節	ヨーロッパ契約法原則 (PECL)	129
第3節	共通参照枠草案 (DCFR)	131
第4節	ヨーロッパ共通売買法規則提案 (CESL案)	133
第5節	P2B規則・DSA	135
第6節	考察	140
<b>第5章</b>	<b>EU・ドイツにおける優越した 力の濫用に係る攻撃的取引方法の法理</b>	145
第1節	不公正な取引方法EC指令	145
第2節	ドイツにおける国内法化	147
第3節	運用状況	157
第4節	考察——意義と限界	168
<b>第6章</b>	<b>EU競争法・ドイツ競争制限禁止法上の 市場支配的地位の濫用規制の意義と限界</b>	171
第1節	市場支配的地位の濫用規制の意義	171
第2節	市場支配的地位の濫用規制の限界	178
<b>第7章</b>	<b>EU・ドイツにおける衡平給付確定の法理の 今日的意義と限界</b>	183
第1節	衡平給付確定の法理の今日的意義	183
第2節	衡平給付確定の法理の限界	186
<b>第8章</b>	<b>我が国における独禁法上の優越的地位の 濫用規制の意義と限界</b>	189
第1節	独禁法上の優越的地位の濫用規制の意義	189
第2節	独禁法上の優越的地位の濫用規制の限界	211
<b>第9章</b>	<b>我が国における定型約款・不当条項規制の意義と限界</b>	217
第1節	民法上の定型約款規制の意義と限界	217
第2節	消費者契約法上の不当条項規制の意義と限界	226

<b>第10章</b>	<b>我が国における衡平給付確定の法理に係る議論並びに 公序良俗・信義則規制の意義と限界</b>	235
第1節	序	235
第2節	衡平給付確定の法理に関する明治期の研究並びに明治期～昭和初期の信義則論	235
第3節	民法の暴利行為に係る学説・判例の従来の議論	240
第4節	民法改正における暴利行為論をめぐる議論	243
第5節	優越した力の濫用に対する公序良俗・信義則規制に係る判例	247
第6節	考察——従来の暴利行為論の限界	272
<b>終 章</b>	<b>我が国における衡平給付確定の法理・ 優越した力の濫用に係る攻撃的取引方法の法理</b>	283
第1節	法的対応の必要性	283
第2節	衡平給付確定の法理	287
第3節	優越した力の濫用に係る攻撃的取引方法の法理	296
第4節	暴利行為論との関係	299
第5節	民法改正作業における議論との関係	305
第6節	立証困難の解消	308
第7節	結語——今後の課題	312

おわりに